

想人 OMOIBITO 生徒インタビュー

05

interview



気になる事を聞いてみました！

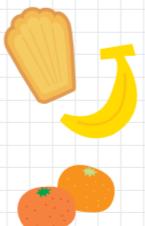


Q1 ふたば未来学園に入った理由を教えてください。

私たちが入学する時にふたば未来学園の校舎が新しくなるというのを知って、そこに惹かれました。また、探究活動など他の学校にはない授業やカリキュラムがあったので、そこに魅力を感じて入学しました。

Q2 未来ラボのカフェで好きなメニューはありますか？

広野町のバナナを使ったマドレーヌがおいしかったです！みかん系の商品もおすすめです。たくさんの商品があるので、ぜひいろいろ人に食べてもらいたいです。



Q3 探究活動では震災のことに関係ないことも学ぶこともできますか？

はい、できます。ほとんどの人は地元や震災に関係のあるテーマを選んでいますが、私は子どもに興味があったので、その中でも関心のあった虐待とつながる「子どもの心の貧困」について調べています。将来はそういう子どもたちの力になりたいです。

Q4 これから双葉郡にはどんな場所になってほしいと思いますか？

多くの人が双葉郡に住みたいと思えるくらい、生活が便利になってにぎやかな場所になってほしいです。ただ、自然が豊かなところもとても良い部分なので、そこを活かしつつ若者を惹きつけるものが町にほしいと思います。

Q5 双葉郡についてもっと広めたいことはありますか？

まずふたば未来学園があるということ、そこで生徒たちが広野町の農作物を使った魅力ある商品を作っていることを知ってほしいです。また、双葉郡は発展の途中ですが、だからこそある場所や取り組み、その魅力もあるので、今の双葉郡も知ってほしいと思います。



当時と今の事、教えてもらいました。

ふたば未来学園について

ふたば未来学園は他の学校と比べて、学年やクラスのくくりがなく、たくさんの人と交流できる場所だと思います。総合学科では、それぞれクラスに所属しているものの、授業ごとに受けける人は変わります。クラスやコースごとの壁がなく、生徒全員と交流できる環境はとても良いです。また校内には「双葉みらいラボ」という生徒たちがつどう場所があり、勉強や息抜きの場として使われています。ここには大学生の方たちが来てくださっています。探究活動の手助けをしていただけたり、テスト期間に勉強を教えていただけるため、利用者は多いです。カフェも併設されていて、農業を勉強している生徒たちが開発した商品も販売されています。このカフェは一般の方も利用できるのですが、実際に利用されている方はまだ少ないので、地域の方たちが利用しやすい雰囲気になって、もっと活動について知ってもらったり、地域の人と交流ができる場所にしたいです。



現在学んでいること

私はいわき市の出身で、震災当時も双葉郡ほどのひどい被害はありませんでした。そのため、震災の状況はテレビの奥のことあまり実感がなかったように思います。双葉郡についても、原発があることや人が少ない町くらいの知識で、あまりいいイメージはありませんでした。その意識を大きく変えたのが、1年生時のバスツアーです。大熊町と富岡町をまわったのですが、建物が震災当時のまま壊れていったり、フェンスがたてられて入れない場所があったり、閑散とした現場を見て今までと違う感覚を持ちました。同時に、すぐ近くで起きていたことを知らないことに後悔しました。その日の体験が地域に関する活動に取り組む力になっていると思います。授業の中で町のことや震災のことを劇にする授業がありました。双葉郡について伝えることを目的に、講師の方から専門的な指導を受けて演劇をします。そのために町の人たちにインタビューをするのですが、私は双葉郡にある精肉店にお話を伺いました。震災後、避難していた時も営業を望む電話がたくさんかかってきたと聞き、地域の人たちのつながりを感じました。店主の方は被災後も移動販売を行なっていて自分が被災しても他の人のために行動していた話も印象的でした。自ら演じることで震災当時の大変さを追体験することができて、震災についてより深く知る機会となりました。その他の活動でも地域の人と関わる中で、想像より多くの人が生活していること、町の人たちが優しいことなど、双葉郡のイメージが日に日に変わっています。また、町のいいところが見えてくると、マイナス面もより実感し、自分自身の課題としてとらえるようになりました。今解決すべき課題は、避難して町から出た人たちが安心して戻ってこれる環境づくりだと考えています。もし自分の立場だったら、まだこの町に戻ってきたいと思う状況ではありません。未来に向けて、見た目も町としての機能もより良く変えるべきだと思います。